

もちづき亮佑 衆院大阪18区 国政対策委員長

活動ニュース No.21



2021.04.19 発行：日本共産党 衆院大阪 18 区選対本部 Tel:072-437-8411/Fax:072-437-8414 【部内資料】

4/16 岸和田市内で宣伝 (4/19 Facebook 掲載)

新型コロナウイルス感染押さえ込む展望が多くの人を励まし政治を変える



16日の午後、岸和田市議の岸田厚さんや地域の党支部の皆さんと宣伝カーで回り、あちらこちらでマイクを握り訴えました。

大阪は、新規感染者数が1000人を超える日が続き、かつてなく大変な状況を迎えています。時間を経る毎に感染者数が増えていく状況に多くの方が辛さを抱えているところだと思うのです。

こんな状況だからこそ、感染拡大を抑え込むために政治を変える展望を訴えて回ることが大事だと思って、街頭ではお話をしています。感染がこれだけ

広がってしまった背景には、明らかに政治の不作為があるのです。菅政権は不十分な対策に、後手後手の対応に終始し、さらに感染がこれだけ広がっているもとでもオリンピックを強行しようとしています。今の政治を変えて、世界の感染対策の経験にも学んで、検査数を抜本的に増やし、無症状感染者を積極的に保護し、医療機関を支援し、家計や生業を支える支援を行うならば、感染拡大を抑え込むことは可能なのです。

なかなか出口が見えない状況だからこそ、この状況を脱する展望を伝えること自体が、多くの人を励ますことになると考えています。その流れは、かならず政治を変え、感染拡大を抑え込む事へつながるはずです。

大阪18区から野党連合政権を作ろうとの声をあげつづけます。

4/15 忠岡町で宣伝 (4/15 Facebook 掲載)

「どんな小さなことでも一人で悩まず共産党へ相談を」と訴え

15日の午前、忠岡町議団の面々と町内を宣伝カーで回り、辻々でお話しました。

大阪では新規感染者が2日続けて1000人を超える大変な状況を迎え、多くの方が不安な思いで生活をされているのだと思います。そして、現実に困り事や生活苦に見舞われている方も沢山おられるのではないかと思います。

このところは、訴えの最初に「どんな小さな事でも一人で悩まず共産党へ相談を」と呼び掛けてから、感染対策のことや次の衆院選で政治を変える展望についてお話しするようにしています。日々の訴えが、



今まさに悩み苦しんでいる人の耳へ届き、状況を変えるきっかけになればと思うのです。

ひきつづき奮闘します。

【「処理水」海洋放出の決定に対する見解を Facebook に掲載】

福島第一原発の「処理水」の海洋放出を政府が決めたことに関わって、Facebook の「もちづき亮佑」のページに見解を掲載しましたのでご紹介します。

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

放射能汚染水をどうするかは容易に解決できない原理的な難しさを抱える問題です。放射能そのものをなくす技術を人類は未だ持っていないからです。現時点で取り得る「解決法」は、結局のところ〈濃縮してどこかに固めておく〉か〈薄めてどこかに捨てる〉かのどちらかということになってしまうと思います。

しかし、今回の決定にはいくつものごまかしや問題のすり替えがあり、このまま見過ごすわけにはいきません。

ひとつは、海洋放出が決定された「処理水」には、除去が困難だと政府の説明するトリチウム(三重水素)以外にも、多数の放射性元素が含まれているということです。東京電力が公表しているデータを見れば、いくつものタンクで放射能の濃度が基準値を上回っていることが確認できます。

【東京電力：タンク群毎の放射能濃度推定値/実測値：
<https://www.tepco.co.jp/.../watertrea.../images/tankarea.pdf>】

NHK のニュースでは、このトリチウム(三重水素)のもつ性質が解説されたようですが、トリチウム水の危険性の議論から、「処理水」海洋放出の妥当性を導き出すのは、悪質な論点のすり替えです。

ふたつは、外国の原発が海洋放出するトリチウム水の濃度や WHO の示す飲料水の基準値を持ち出して、「処理水を十分薄めれば安全だ」と政府が説明していることです。

今日の気候変動や環境破壊がなぜ引き起こされているのかといえば、結局は海洋も大気も有限の大きさしか持たないものだからです。「薄めれば大丈夫だ」という議論は、海は無限に広いのだと言うに等しく、それならば海には何を捨ててもよいことになってしまいます。

海洋放出に踏み切れば、そのぶん海水中の放射能は増えるわけです。「飲んでも影響がない」とか「世界中で行われてる」とか、そんなこととは無関係に、海は汚されるのです。

みつつは、海洋放出を巡って必要な対応として、政府や与党の関係者は決まり文句のように風評被害への対策にしか言及しないことです。

「処理水」の海洋放出はその分、確実に海を汚すわけです。そのことの影響を「風評被害」と表現することは、これを受け止める側の気持ちの問題へと、問題を矮小化するごまかしです。

10年前の原発事故によって故郷を追われた人がいて、そして今も復興に努力する人がいるただ中で、こんなごまかしができてしまう人には、現実を認識する能力が不足しているか、あるいは、人の道を知らないかのどちらかでしょう。

最初に述べましたが、この問題は現時点で確実な解決策が存在しない原理的な難しさを孕んでいます。だからこそ、状況を正確に把握し、周知した上で、丁寧な議論を経て社会的な合意を形成する努力が欠かせないのです。困難な問題に際したときに、議論をすり替え、ごまかし、反対する側に「責任を持って」という言葉を投げつけることは、大きな誤りです。

ところで、谷川俊太郎の「生きる」のなかに、こんな一節があります。

生きていくということ

いま生きていくということ

それはミニスカート

それはプラネタリウム

それはヨハン・シュトラウス

それはピカソ

それはアルプス

すべての美しいものに出会うということ

そして

かくされた悪を注意深くこぼむこと

難しい世の中で、人間としての一生の在り方を日々問われている思いがしています。

